

2019年11月11日(月)～16日(土)

第94回 FIM インターナショナルシックスデイズエンデューロ (ISDE) / ポルトガル・ポルティマン

## <リザルト>

Japan World Trophy Team 13位 E3 21位 BRONZE

## < DAY1 > 晴れ / 曇り / 雨

指定コース2周 / トータル約280km / 走行時間約7時間30分程 / 7テスト・7タイムチェック

ワークタイムでリアタイヤ交換

最終区間で転倒をしてしまったこともあり1分遅れたが、怪我はなくフィニッシュ。スタート順の関係もあり、自分より速いライダーの走りも見れて勉強になった。各タイムチェックで6～8分余りで余裕はない設定。

---

## < DAY2 > 晴れ

DAY1と同じコース内容

指定コース2周 / トータル約280km / 走行時間約7時間30分程 / 7テスト・7タイムチェック

ワークタイムで前後タイヤ交換

DAY1と同じコースであったので、もの凄い荒れ方だった。サンド質のテストで激しくクラッシュしてしまい、頭を強く打ち付けたが、走行への影響はなかった。荒れてはいたが、ペースを上げ攻めた走りが出来た。風は強かったが、雨は降らず、身体への負担も多少は軽減された。

---

## < DAY3 > 晴れ / 曇り / 雨

指定コース2周 / トータル約266km / 走行時間約8時間 / 7テスト・7タイムチェック

ワークタイムでリアタイヤ交換

DAY3は新たなコース設定。事前のアナウンスの通りの高低差天候の変化が激しいコンディション。一部の区間はひたすら山登りで HED 並みの難しい場面もあり、途中コースマーシャルに助けもらった。滑りやすい場面がルートでもテストでもあったので、終盤は消耗したタイヤでは大変だった。

---

## < DAY4 > 晴れ / 曇り / 雨

DAY3と同じコース内容

指定コース2周 / トータル約266km / 走行時間約8時間 / 7テスト・7タイムチェック

朝のワークタイムでフロントタイヤ交換、夕方のワークタイムでリアタイヤ交換

朝から雨で薄暗い中でのスタート。無風か突風かのどちらかでパドックのサポートスタッフにも厳しい状況だった。1LAP目の山岳区間で苦戦し遅着。その疲労のまま次の区間で大きなクラッシュ。その時にマシンを破損してしまい、修復に時間を要してしまった。ルート上でのトラブルで大きく遅れるが、回避不可能であったためにペナルティは取消になった。



## < DAY5 > 晴れ

指定コース2周／トータル約286km／走行時間約7時間30分程／8テスト・7タイムチェック  
朝のワークタイムでフロントタイヤ交換、夕方のワークタイムでリアタイヤ交換

前日のタイムオーバーで出走NGと思ったが、ジュリーミーティングでBOSSの働きかけによって出走可能となった。DAY4までと違って変わり、コースも天候もタイム設定も優しく過ごしやすかった。疲労できついときもあったが、各テスト前にしっかりと休み、走行に集中できた。新しいルートの1日でとても砂ぼこりがひどい場所が多かった。

## < DAY6 > 晴れ

パドックのあるサーキット（AIA）内のカートコースにて特設ファイナルクロス／7周／一部舗装路／最終ヒートE3

MX形式でのスタートであったが、前日までの順位もあり2列目スタート。スタート後は最後尾から4番手。荒れたコースにすり減ったタイヤで苦戦したが、クラッシュもなく走り切ることができた。



今回のISDEポルトガル大会に、ワールドトロフィー日本代表チームのメンバーとして参加した。

4人1チームのメンバーで構成される国別対抗クラスで、今年のメンバーの中では最年少かつ唯一のISDE経験者だった。

前回参戦したのは、2017年フランス大会。その時の経験もあり、事前にイメージが出来たというのは、レースに臨むにあたり、精神的に余裕となった。しかし、代表メンバーで私だけMX-IAではなく、スピード&スキルが劣っているのは、当初からわかっており、その点では余裕はなく追い込まれていた。

レースが始まると、思っていた通りで苦戦するポイントが多かったが、逆にいいペースで走れているときもあった。

砂、土、泥、石、岩、木の根、川、強風、暑さと寒さなど、今まで経験したレースの中で、最も多くのコンディション、それもめまぐるしく変化するなかで戦うレースとなった。

ほとんどの日が、指定のコースを1日に2周。2周目に走行するときには「別のコースでは？」というくらいに荒れた状況になっていた。そのコースを2日間使う場所もあった。

各ポイントでのサポートは、日本人の方々にもお世話になったが、KTMレンタルサポートサービスの方々にもお世話になった。KTMメカニクススタッフには、フランス大会でもサポートをしてもらったので、何も心配はしていなかったが、しっかりと用意されたパーツ、工具、テント、備品、飲み物、食べ物、時計などはもちろん、適格な使い方や指示など、今回も完璧なサービスを受けることができた。フレンドリーだったのも嬉しくレース中とても心強かった。

今回の6日間を終えて、ライディングにおけるスピード、テクニック、一瞬の判断力、上手に戦い走るための力の使い方などに加えて、6日間戦い抜くための体力、レース後の身体のケア、さらにはメンタル面など、全てが足りていないと改めて実感した。

ISDEに参戦できたことは、たいへん貴重な経験であり、応援、支援してくださったの方々には非常に感謝している。この経験が無駄にならないよう、新たな目標に向かってスキルアップと経験を重ねていきたい。

